

“この復讐は見世物じゃない!”

2009年6月に裁判員制度なるものがこの国に誕生してから、国民は人を裁くことにある種のヒロイックさを見出し、それに酔いしれ、麻痺し、さらなる裁きを求めた――。

【犯罪被害者復讐制度】

それは、犯罪の被害者、もしくは被害家族、遺族、またはその親類などが加害者に復讐するチャンスを与えられるというもの。その模様は国営放送により、ライブでお茶の間にショーとして届けられ、視聴率は毎回70%に迫る勢い。もはや国民的人気番組となっていた。

白瀬省吾は数年前に強盗に父親を殺され、夢にも人生にも行き詰まっていた。そんなある日、遂に【犯罪被害者復讐制度】への参加が認められた。

自分と同じようになんらか犯罪に巻き込まれ、それにより心に大きな傷を負ってしまった被害者達。そんな参加者達と行動を共にし、十人十色の復讐を目の当たりにした省吾は、復讐を心に誓いながらも、この制度への違和感との間で葛藤していく。